

## 第四号議案

南信州アルプスフォーラム

# 令和4年度 事業計画

リニア中央新幹線の開業予定を2027年に控え、地域のまちづくりのビジョンが示されてきた。

飯田市は、土地利用基本方針にて「地域の多様性を生かし、豊かな暮らしを実現する持続可能なまち」を目指す姿とし、「拠点集約連携型都市構造」による「山」「里」「街」の魅力を生かしたまちづくりを掲げている。

このたび、上記のようなまちづくりとともに、リニア時代を見据えた21世紀の新しいまちづくりを展開するため、「都市重心」「人口重心」「交流重心」という3重心を意識したまちづくりがあらたに提唱された。

特に、「都市重心」としての丘の上（中心市街地）には、長い歴史の中で、行政機能、まちなかMICE（飲食、宿泊、会議等）、文化活動の拠点機能等多くの都市機能が集積し、飯田市の中心拠点としての役割を担っている。今後は、既存の集積を維持しながら、快適性利便性の向上とともに、まちなかでの文化芸術活動、まちなかMICE機能の充実を図り、ひと、もの、情報の集積を図れる、多様なライフスタイルの実現を目指すものとなっている。

一方では、第3期飯田市中心市街地活性化基本計画もスタートし、「飯田美しき町」魅力的な丘のまちの形成を基本理念とした事業が始まっている。多様な主体の力を地域力に集結し、当地域におけるリニア時代の中心拠点となる豊かな「丘のまち」の暮らしを共創し、実現を目指している

当フォーラムにおいても、長年リニアとまちづくりに取り組む中で、リニア駅周辺のグランドデザインの提案、リニアを見据えたまちづくりに関する研究提言をしてきた。

行政から具体的な地域ビジョンが示されてきた現在、これらのものを包括化し、多様な主体の一部として、地域全体のまちづくりを考える中で、中心市街地とリニア駅とを見据えたまちづくりを再考していく。

1. 「3重心」（都市重心・人口重心・交流重心）による機能と構造のまちづくりの研究
2. 地域全体としての交通ネットワークや観光、産業等の拠点創出検討
3. 「丘の上」の将来像へのアプローチ 具体的都市機能の研究、実証
4. 地域全体としての機能分担、役割 提案

以上をテーマに全体勉強会を4回の開催を予定し、関係する組織や人材との意見交換を踏まえて、部会を開催して詳細をまとめ、最終的に地域全体の具体的取り組みをまとめる。